

「100年先も必要とされる会社」へ

第96期 中間期

株主のみなさまへ

決算ご報告

2024年4月1日 ▶ 2024年9月30日



株主のみなさまへ

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申しあげます。

当社およびグループ各社（以下、当社グループと称します。）の第96期中間期（2024年4月1日から2024年9月30日まで）の事業の概況をここにご報告申しあげます。

96期は中期経営計画の2年目を迎えました。本中期経営計画期間では、「財務基盤の整備」「既存事業を強化する仕組みづくり」「新しい事業を構築する準備」「循環型社会の実現に向けた開発」「従業員が誇りを持って働きたいと思える会社づくり」という5つの経営方針を推進し、着実な利益成長の実現を目指して取り組んでおります。株主のみなさまには引き続き当社グループへのご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申しあげます。

敬 具

2024年12月



代表取締役 社長執行役員

山村幸治

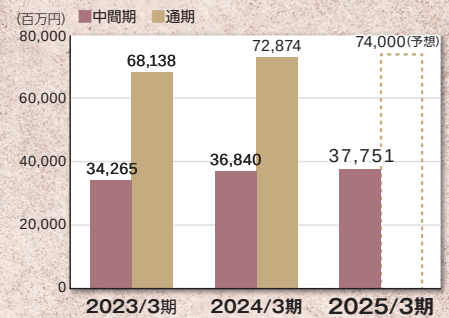
2025年3月期
中間期

連結業績ダイジェスト

売上高

37,751百万円

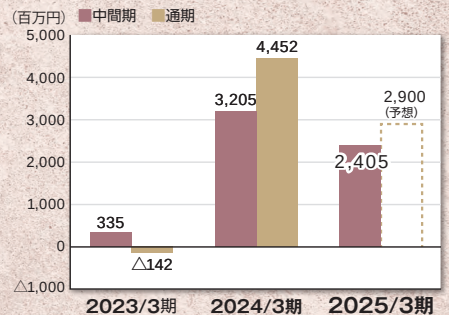
ガラスびん関連事業では国内ガラスびん業界全体の出荷量が減少し、当社の出荷量も減少しましたが、タイの子会社の売上増加等により増収となりました。プラスチック容器関連事業では当社の飲料用キャップの出荷の増加や中国の子会社の販売が好調なこと等により増収となりました。ニューガラス関連事業では当社における電子部品用ガラスの出荷が堅調に推移しました。これらの結果、売上高は37,751百万円(前年同中間期比2.5%増)となりました。



営業利益

2,405百万円

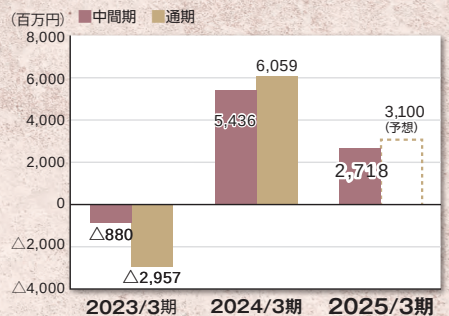
プラスチック容器関連事業では、原料費や運搬費等の増加がありましたが、出荷量増加に伴い生産量が増加したこと等により増益となりました。物流関連事業では作業生産性の向上等、ニューガラス関連事業ではコスト削減等の損益改善がありました。一方、ガラスびん関連事業では、当社における出荷量・生産量の減少、燃料・動力価格の高騰および物流費・労務費等の増加がありました。これらの結果、営業利益は2,405百万円(前年同中間期比24.9%減)となりました。



経常利益

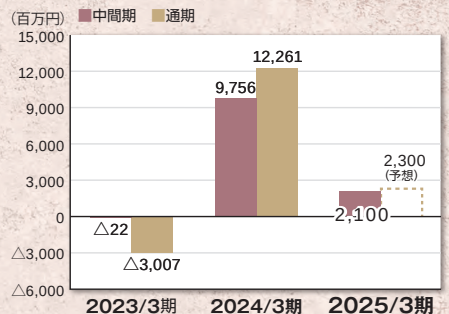
2,718百万円

前年同中間期は米国の関連会社に係る貸付金が全額返済されたこと等により、持分法による投資利益1,665百万円を計上しましたが、当中間期はそのような特殊要因がなく、持分法による投資利益は285百万円となり、経常利益は2,718百万円(前年同中間期比50.0%減)となりました。

親会社株主に帰属する
中間純利益

2,100百万円

前年同中間期に計上した、事業構造改革計画に基づき実行した固定資産の譲渡により発生した固定資産売却益や、米国の関連会社の持分譲渡により発生した持分変動利益の反動により特別利益が減少し、親会社株主に帰属する中間純利益は2,100百万円(前年同中間期比78.5%減)となりました。

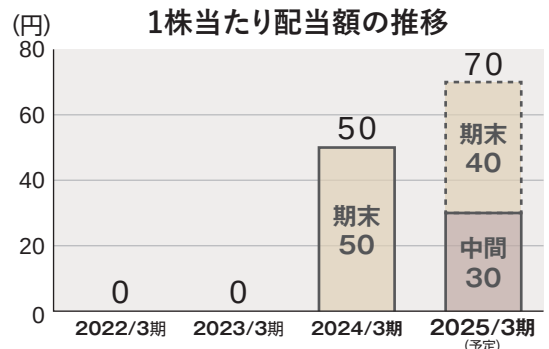


利益配分に関する基本方針および当期の配当

当社は、利益の配分につきましては、当期(2025年3月期)以降、1株当たり50円を下限として設定し、連結配当性向30%を目安に利益増加に応じた継続的な配当額の増加を目指す方針です。

当期(2025年3月期)の剰余金の配当につきましては、中間配当金を1株につき30円とし、期末配当金40円と合わせ、通期で70円とさせていただきます。

1株当たり配当額の推移



TOPICS

ガラスびん製造における自動化の取り組み ～塗油ロボットの導入・販売推進～

ガラスびんは粗型や仕上型などの金型を使用して作りますが、熱いガラスが金型からスムーズに離型するように1時間に1～4回、金型表面に潤滑油を塗布する必要があります。これを塗油作業といいます。

当社ではガラスびん製造に使われる金型への塗油を行うスプレーロボットを開発し、自社ラインに設置しております。

塗油ロボットを導入することで、塗油作業における危険な作業や、高温な環境下での作業を自動化することができ、作業者の安全性改善を実現しました。また、塗油作業はガラスびん製造に係る工数の中で大きな割合を占めており、自動化によりガラスびん製造の効率化、労働環境の改善にもつながっております。

当社が開発した塗油ロボットは粗側だけでなく、世界初の仕上側塗油ロボットを含む完全自動塗油システムであり、国内外で特許を取得済みです。当社では近年中に全製造ラインへの設置を見込んでおり、塗油作業の自動化において業界をリードしています。

現在では、社外においても、国内・海外を問わず、販売を開始しており、売れ行きは非常に好調です。

今後は、当社におけるガラスびん製造の生産性向上への寄与にとどまらず、社外販売をさらに推進し、収益向上、業界の発展への貢献を目指してまいります。



REBORN CAP PROJECT

大阪・関西万博「TEAM EXPO 2025」プログラム

／共創チャレンジに登録されました

当社は1973年に前身である山村硝子株式会社の山村徳太郎(当時 社長)により、家庭ごみからガラスびんを分別回収して「びん to びん」リサイクルをする日本初の分別回収を行政とともに開始し、来るべき循環型社会に備えた仕組みづくりを行ってきました。

大阪・関西万博「TEAM EXPO 2025」プログラム／共創チャレンジでは、リサイクルの普及が進んでいないプラスチックキャップにおいても、「ペットボトルキャップの水平リサイクルの実現」と「キャップの新しい付加価値の創出」に向けて取り組んでいます。

この取り組みが、多くの皆様にキャップのリサイクルについて知っていただくきっかけになればと考えています。

<https://www.yamamura.co.jp/news/2789>



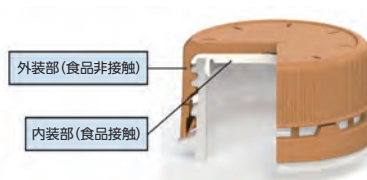
日本初 酒類飲料キャップにおける

水平リサイクルの実証実験を実施

当社はキャップの外装部にリサイクル樹脂を10%混合した2ピースキャップを開発しました。このキャップを、麒麟ビール株式会社の会員制生ビールサービス「麒麟 ホームタップ」で提供される「一番搾りプレミアム」の1Lペットボトルのキャップに期間限定で導入します。当実証実験は、酒類飲料のペットボトルに使用するキャップから同一キャップへの水平リサイクルの実用化において日本で初めての取り組みです。

当社は、新たな温室効果ガスをできるだけ発生させない回収スキーム、リサイクル技術の確立を目指しています。詳細は当社ホームページのニュースリリースをご覧ください。

https://www.yamamura.co.jp/cms/wp-content/uploads/2024/11/20241129_CMS0427.pdf



「ファミケア」と「食事や投薬時のお困りごと」を 解明するプロジェクトを発足

当社プラスチックカンパニーファーマキット事業グループと株式会社NEWSTA(以下NEWSTA社)が運営する情報サイト「ファミケア」では、「食事や投薬時のお困りごと」を解明するプロジェクトを発足し、「食事とお薬のお困りごとに関するアンケート」を実施しました。

今回のアンケート調査を通じ、NEWSTA社と疾患や障がいのある子どもを育てているご家族の方と一緒に、当社技術を活用した製品の開発を検討していきます。

<https://www.yamamura.co.jp/news/2714>



山村JR貨物きらベジステーション株式会社

令和6年度「モーダルシフト等推進事業費補助金」の採択決定

当社グループの山村JR貨物きらベジステーション株式会社と中山運送株式会社が令和6年度「モーダルシフト等推進事業費補助金」の計画策定経費補助に採択されました。

トラック輸送業界の労働力不足への対応、労働環境の改善、温室効果ガス排出量を削減しカーボンニュートラルの推進を図るため、鉄道コンテナ輸送へのモーダルシフトに取り組む計画です。

当社はグループ全体でサステナビリティに関する活動に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献します。

<https://www.yamamura.co.jp/news/2705>



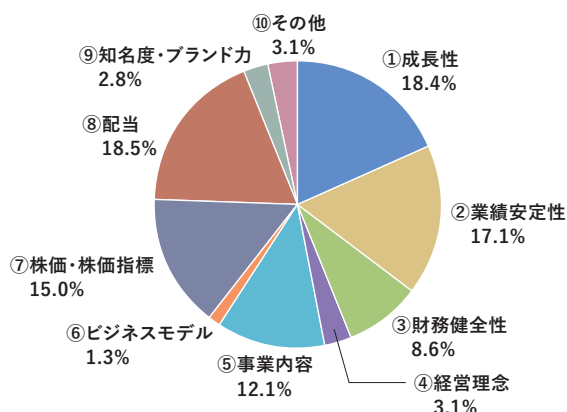


株主様アンケート結果のご報告

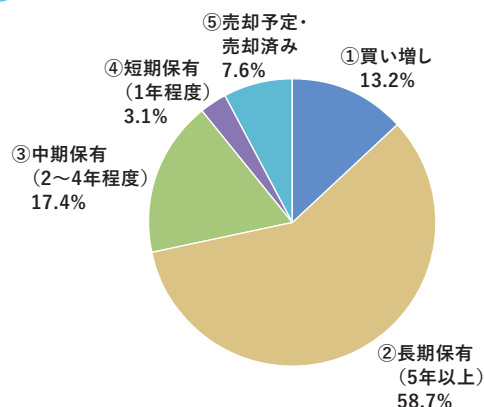
2024年3月末時点の株主様を対象に、ハガキによるアンケートを実施しましたところ、多くの株主様からご回答をいただきました。

ご協力いただき、誠にありがとうございました。アンケート結果の一部をご報告させていただきます。

当社株式取得時に重視したことをお聞かせください。



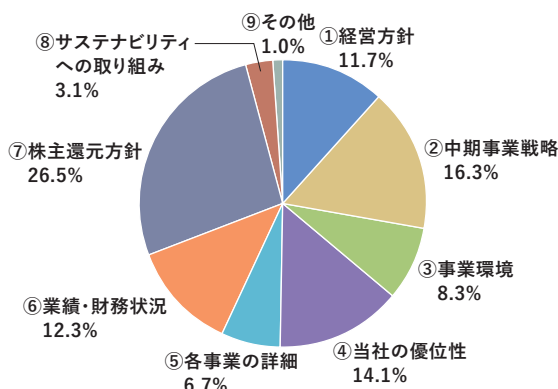
当社株式の今後の保有方針をお聞かせください。



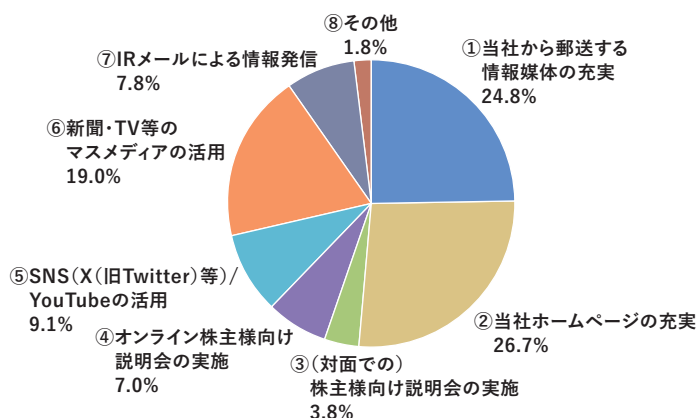
お寄せいただいたコメント

- 配当金の金額をみて、とてもうれしく思いました。これからがんばって、会社を大きくして下さい。
- 成長と配当を期待して長く保有したいです。
- 御社の成長とますますの発展、そして配当についても期待しています。そもそもガラス製品がとても好きなので、応援しています。
- 成長期待で保有している、まだまだ株価が安いと思う。株主還元+貴社成長を期待しています。
- 長期保有していますが、株価が低迷しています。業績・株価上昇期待しています。

当社に関して、もっと知りたい情報をお聞かせください。



当社のIR活動について、充実を希望することをお聞かせください。



お寄せいただいたコメント

- 株主還元方針が出たら、買い増したい。
 - 中期事業戦略が明確でしたら、長期保有で応援したいと思います。
 - 新分野への展開があれば有難い。
 - 会社の認知度を上げるための取り組みが弱いと思います。知名度の向上に力を入れてほしいです。
 - 創業100年を越える関西の企業なので、昔から応援しています。
- SDGs、特に環境に対しての御社の取組をいろいろな形で発信して、企業としての認知度を高めて欲しいです。

他にも、要望・叱咤・激励のお言葉など、多くのご意見を頂戴しました。

株主のみなさまからの貴重なご意見を参考にさせていただき、今後も一層の企業価値向上、ならびにIR活動の充実に注力してまいります。

引き続き、当社グループへのご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

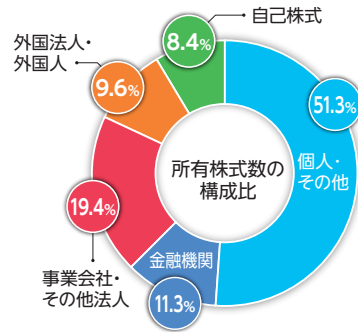
会社の概要		(2024年9月30日現在)
商号	日本山村硝子株式会社(Nihon Yamamura Glass Co.,Ltd.)	
本社所在地	関西本社 兵庫県尼崎市西向島町15-1 電話 06-4300-6000(代表)	
	東京本社 東京都新宿区西新宿6-14-1 電話 03-3349-7200(代表)	
	新宿グリーンタワービル20階	
創業	1914年4月5日	
設立	1941年12月11日	
資本金	140億7,496万5,448円	
従業員数	747名	
上場証券取引所	東京証券取引所(スタンダード市場)	
会計監査人	有限責任 あずさ監査法人	

大株主の状況			(2024年9月30日現在)
株主名	所有株式数	所有株式比率	
MURAKAMI TAKATERU	990千株	9.70%	
日本山村硝子取引先持株会	714	7.00	
株式会社三井住友銀行	425	4.16	
株式会社MI2	379	3.71	
INTERACTIVE BROKERS LLC	378	3.71	
山村 幸治	305	2.99	
日本山村硝子従業員持株会	254	2.50	
株式会社三菱UFJ銀行	229	2.24	
三菱UFJ信託銀行株式会社	227	2.23	
サッポロホールディングス株式会社	188	1.85	

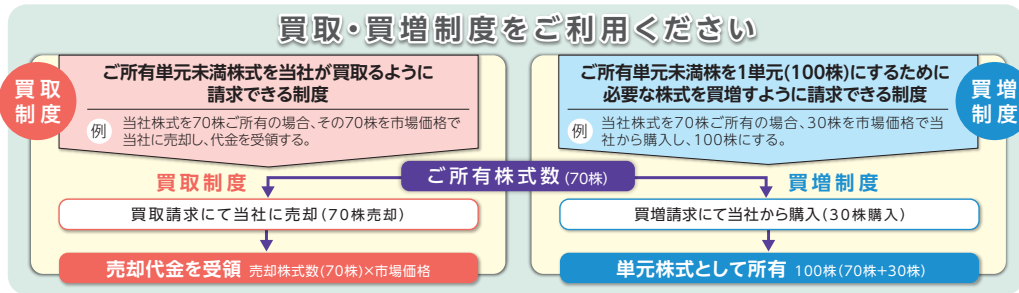
(注) 1. 当社は、2024年9月30日現在、自己株式934千株を保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 所有株式比率は自己株式を控除して計算しております。
3. 所有株式数は表示単位で切り捨て表示をしております。

株式の状況		(2024年9月30日現在)
発行可能株式総数	30,000千株	
発行済株式の総数	11,145千株	
株主数	7,710名	
単元株式数	100株	

所有者別株式分布状況			(2024年9月30日現在)
	株主数	所有株式数	
個人・その他	7,380名	5,718千株	
金融機関	17	1,261	
事業会社・その他法人	243	2,166	
外国法人・外国人	69	1,064	
自己株式	1	934	
合計	7,710名	11,145千株	



役員			(2024年9月30日現在)
取締役 (監査等委員である取締役を除く。)			
代表取締役社長執行役員	山村 幸治		
取締役専務執行役員	小林 史吉		
	コーポレート本部、研究開発センターおよび植物事業部管理		
取締役専務執行役員	明神 裕		
	ガラスびんカンパニー社長		
取締役専務執行役員	山村 昇		
	プラスチックカンパニー社長およびグループサステナビリティ推進部管理		
取締役執行役員	田口 智之		
	ニューガラスカンパニー社長		
監査等委員である取締役			
取締役常勤監査等委員	水田 好彦		
取締役監査等委員(社外)	井上 善雄		
	株式会社巴川コーポレーション代表取締役社長(独立役員)		
取締役監査等委員(社外)	高坂 佳郁子		
	弁護士(独立役員)		
取締役監査等委員(社外)	泉 豊禄		
	ハクスイテック株式会社代表取締役社長(独立役員)		
執行役員			
常務執行役員	副島 正義		
	ガラスびんカンパニー副社長		
執行役員	佐貫 正義		
	監査等委員会室長		
執行役員	植田 光夫		
	環境室管理		
執行役員	井料田 保二		
	コーポレート本部長		
執行役員	木村 周二		
	研究開発センター長		



株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金受領日	3月31日
株主確定	
中間配当金受領日	9月30日
株主確定	
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777(通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL https://yamamura.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で行うこととなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。

2. 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。
なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にでもお取次いたします。

3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株式に関する手続きについて

○特別口座に記録された株式		
お手続き、ご照会等の内容	特別口座の口座管理機関	お問合せ先
○特別口座から一般口座への振替請求 ○単元未満株式の買取(買増)請求 ○住所・氏名等の変更 ○特別口座の残高照会 ○配当金の受領方法の指定(*)		三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777(通話料無料)
○郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ○支払期間経過後の配当金に関するご照会 ○株式事務に関する一般的なお問合せ	株主名簿管理人	[手続き書類のご請求方法] ○インターネットによるダウンロード https://www.tr.mufj.jp/daikou/
(*)特別口座に記録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として株式数比例配分方式は選択いただけません。		
○証券会社等の口座に記録された株式		
お手続き、ご照会等の内容	株主名簿管理人	お問合せ先
○郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ○支払期間経過後の配当金に関するご照会 ○株式事務に関する一般的なお問合せ		三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777(通話料無料)
○上記以外のお手続き、ご照会等	口座を開設されている証券会社等	にお問合せください。